

## 選考委員特別賞

### 多賀多津子 <集合住宅の現今>

マンションや団地などの集合住宅を持ち家とする者は、その建物の維持、管理を、住人全体で行う事が法律で定められている。私の住まいは300世帯からなる分譲団地であるため、住人が輪番で務める理事会を結成してそれに当たっているのだが、老朽化が進む建物と住人の高齢化との“二つの老い”により、自主管理は暗礁に乗り上げている。

他の集合住宅のほとんどは、管理の専門業者へ委託をしているのだが、私の団地では「委託は費用がかかる」との反対意見が多数を占め、迷走の中での自主管理が続いている。一番の難題は、膨大な費用を要する改修工事である。利害が絡むうえに、専門知識が求められるそれには、高齢者が目立つ理事会では手に負えないのである。そんな現状を「なんとかしなければ」と立ち上がったのは、数人の女性であった。

集合住宅の管理は「建物区分所有法」という法律に則るため、私たちは九州大学の「法律相談会」や、NPO法人の「マンション管理組合連合会」などから指導を受けて提案を試みたのだが、理解は得られなかった。理由は「女の意見」だからである。女性軽視が罷り通るなかでの「女性たちの奮戦記」。

### 山田たけを <私の歩いた道 - 蚕とともに 42年 - >

昭和25年より長野県蚕業試験場松本支場へ就職し、野外昆虫である天蚕、柞蚕の生態及び増殖について研究をした。昭和35年に長野県蚕業試験場本場に転任し、蚕体病理の研究を担当し、いろいろな方面から実態調査をした結果、消毒の徹底がなされていなかった等々が判明した。そこで電子顕微鏡により、25~30mm $\mu$ のウィルス様粒子を発見した。全国の蚕業試験場に病蚕の限外濾液を使って同一飼育を依頼、全試験場で病原体の罹病性を確認していただくことができた。

昭和52年、論文「家蚕ウィルス性軟化病防除に関する研究」を北海道大学へ提出、農学博士の学位を受けた。上田本場では交雑種比較試験を担当。農林省での検討会では「この試験は女性では大変だったでしょう」と声をかけられた。出席者も女性は私ただ一人であった。退職するまで私の職場にはついに正規職員としての女性は来なかった。

退職後は男女共同参画という言葉に出会い、人生を見直してみたり、楽しく過ごしている。